

会議録様式

審 議 会 名	令和5年度第2回杉戸町行政改革推進会議
開 催 日 時	令和5年7月13日(木) 午前9時30分～午前11時27分
開 催 場 所	杉戸町役場第二庁舎2階会議室
会 議 の 議 題	①第7次杉戸町行政改革大綱重点改革項目実施計画の事務事業評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 確実なごみ処理体制の維持 ・ ICT の活用による住民サービスの向上と行政事務の効率化 ・ 杉戸町ふるさと応援寄附金の推進
公開・非公開の別	公開 ・ 非公開 (公開の場合傍聴者数 0人)
	(非公開の場合理由)
出席委員氏名	(出席委員) 鈴木勲、棚橋潤一、佐藤敏行、広田健司、高野清美、須田恒男、倉持勝義 (欠席委員) 佐瀬力、大越佳代子、坂ノ上厚志
審 議 の 概 要	
①について審議を行った。 詳細は別紙のとおり。	

【杉戸町行政改革推会議 意見・質疑等】

(1) 第7次杉戸町行政改革大綱重点改革項目実施計画事務事業評価

・事務事業評価1 確実なごみ処理体制の維持（環境課）

質問・意見①

（倉持委員）

フードロス対策について、飲食店で大盛無料や食べ放題など、営業努力のためにアピールしています。

また、テレビ番組などでは、たくさん食べたということが英雄視されるかのような風潮があると思いますが、現実には人は高齢化に伴い食事の量も減っています。

健康面やフードロス対策の観点から、大盛が無料や食べ放題ではなく、「小盛にされる方は遠慮なく申し出てください」といったアピールをしてご飯や麺類の量を減らしてくれるお店が増えれば良いと思っています。

行政も協力して、小盛を申し出やすいようにお店にステッカーを貼ったり、お店から出るゴミも減らしていくといった取り組みをしている自治体があると聞いたことがあります。

商工会やいろんな課と連携して取り組むことで、費用もかからずにできそうだなと思います。

また、今の風潮として、クリスマスになればクリスマスケーキが大量に売っていて、次の日になったら処分されてしまいます。

事業者も必死なのはわかりますが、結果的にはゴミ処理に対して全国的にダメージを与えていると思います。

そんな取り組みについて考えていただければありがたいです。

（環境課長）

大変参考になるご意見をありがとうございます。

確かに、お店によっては「小盛を希望される方は教えてください」というような案内もあると思いますが、そういったお店は少ないのかなと思いますので、商工会や産業振興課と連携して検討していきたいです。

質問・意見②

（委員）

施設の維持管理について、説明の中で、令和4年までに改修工事が終了したという説明がありました。長寿命化計画は令和5年から策定ということは、今まで計画されていたものは全て終了して、今後新たに発生する維持管理のため計画はこれからするという意味ですか。

（環境課長）

令和4年までの内容については、今すぐにやらなくてはいけない改修工事を実施してき

ました。

来年から実施するに大規模改修工事については、この先15年間を見据えた、施設の稼働を可能とするための改修工事をするもので、ちょっと意味合いが違ってくる内容だと思っております。

質問・意見③

(委員)

長寿命化の関係で、15年間これから長寿命化計画をして施設の改修をかけことは理解しています。

現在、杉戸と幸手が、環境センターを運営しているが、更なる広域化について、杉戸町はどのように考えていますか。

また、この先15年間は、他自治体でも炉の新たな建設や建て替えをするといった情報はありますか。

以前、久喜市で大きな炉の建設があった際に、杉戸町が参加できるのか打診し、最終的には参加できませんでした。

今後、町として広域化に対して計画的にアクションを起こすのであればどのような体制でもって取り組んでいくのか、それを明確に近隣の自治体に対して知らせていくことが必要かと思う。

(環境課長)

久喜市では、現在、新しい炉の建設を始めている状況であり、以前、久喜宮代衛生組合に杉戸町から参入を打診してお断りされたというような経緯がございます。

その他に、当町に隣接している市町ですと春日部市がございます。

春日部市も、近年長寿命化計画に基づく改修工事を実施しておりまして、約20年の計画で長寿命化の改修を行ったところです。杉戸は、それに合わせるというわけではありませんが、今から15年の改修工事延命化の計画を実施すると、15年後には同じようなタイミングでの改修や建て替えが必要な時期を迎えます。

ゴミ処理施設の広域化については、今後10年単位の交渉が必要になってくることを考えると、そんなに遠くない未来のうちに、広域化についての話をしていかなければいけないと思っております。

今はっきりしたことは申し上げられませんが、杉戸に隣接している市町ですと久喜市または春日部市ということからすると、今後の選択肢としてはあるのかなというふうに思っているところです。

(委員)

選択肢としてあるのかなといった、希望的な発言でしたが、15年延命したら15年は今のままでいいということではなく、その前に前倒しとしてできる可能性の検討は必要かと思えます。

杉戸町が積極的に春日部市と2市1町の炉の建設を進めるというスタンスでやっていく

のか、意気込みを知りたいです。

(環境課長)

どうしても、ごみの量に従っても炉の大きさが決まるので、広域化をすぐにとというのは、なかなか難しいと思っております。

15年後に向けてございますけれども、ごみ処理の施設を利用して発電を行うケースが非常に多くなってきておまして、春日部でも今の施設で発電をしており、発電を行うには、大きな炉の方がより効率的に発電できるスケールメリットがあります。

そのため、杉戸としてもできれば早い段階からアプローチをかけていければというふうを考えております。

・事務事業評価2 ICTの活用による住民サービスの向上と行政事務の効率化 (デジタル推進室)

質問・意見①

(委員)

資料2-3を見たときに、目標がICT活用件数ということで、非常に数量化しやすいものを目標として立てているため、空欄になっていることがなかなか理解しにくいものでした。

令和4年までについては既に終わったものやあるいは進行中であるが、残る2年については、おそらく今後こうしていきたいという狙いや、計画があり、そのときぶっつけ本番で年度がスタートするわけではないと思います。

今回はやむを得ないが、やっぱり数値化した方がいいのではないかと感じます。

もしそういう定量的なものができなければ、定性的なもの。数値化できなければ、そういうもの何かあると、今の説明を聞いて専門家であれば全て理解できるかもしれないが、一般の方とか、広い視野で評価を受けるにあたって、コメントもしやすいし、評価もしやすいかなと思います。

このあと令和6~7年度と5か年計画で続くので、できれば数値化していただきたい。

2つ目は、機械も人間が動かしている限り、ヒューマンエラーなど、何らかのミスは出ると思います。

実際に、役場から文書をいただいた時に、誤字脱字があったことがあります。

担当者が作成し、上司の決裁を仰ぎ、少なくとも3~4人の目に触れている文章であっても、一目で目に付くような文字の変換ミスも発生するものです。

マイナンバー関連で話題になっているように、人の名前を打つといった単純な情報でも間違えることがあります。

今すぐに結論や解決策が出るものではないが、例えば、文字の入力でも、句読点の誤りや、文字変換の誤りに対して、並線で赤く表示されるなどチェック機能がありますので、そのような機能について、担当課にご検討いただければと思います。

3点目として、ICTを活用するうえで、過信はできないと感じている。2011年の東

日本大震災のときに、午後2時台に、2度にわたって関東地方でも大きな地震が発生した。

そのときに私は学校に勤務していたため、保護者に対して、下校についてどうするのか、あるいは保護者に迎えに来てほしいのか、一斉メール送信機能を使い発信した。迅速な行動により、幸いメールを送信することができたため、保護者に伝わり、保護者にはそのとおりに動いていただけた。

学校によっては、情報発信のちょっとタイミングがずれたためにサーバーが混み合い、2時間経っても3時間経ってもメールが届かない学校もあったと聞く。

いざというときに本当に何が起こるかわからないため、必ず肝心なところは、窓口で人の手でやるなど、緊急事態に備えることを常に念頭に置いてほしいです。

(デジタル推進室長)

令和6～7年度の行政改革大綱実施計画の修正については、総合政策課との調整が必要ただ、杉戸町 DX 推進計画をデジタル推進室では作成しており、そちらの方も並行して進行管理していきたいと考えており、今後できるだけ評価やすいような内容にどの程度修正ができるのかについては、検討させていただきたい。

また、先ほどのヒューマンエラーの関係ですが、私は総務課長も兼任しております。

通知を出す際に内容を上司が確認することになっており、その中で文字変換ミスがあってはならないですし、改めてちゃんと上司がチェック機能を果たす、あるいは研修等を通じて担当職員のスキルアップを図っていく必要があります。

抽象的な答えになってしまいますが、そういうことをまずは考えていかなければいけないと考えております。

(デジタル推進室主幹)

3点目の ICT は過信せず、緊急に利用できないことも想定し、窓口等の人による対応に関しても大切にしてほしいというご意見ですが、おっしゃるとおりであると考えております。

災害時には、例えば携帯電話等も繋がらなくなったり、どうしても普段想定しているよりも、多くの情報をやり取りすることになり、機械の不調が出てまいります。担当として、ICT ありきではあるものの、説明の中で申し上げましたとおり、災害時に備えてバックアップをとるのですとか、対策を考えているところです。

また、窓口等に関しましては、いくら ICT 化が進んだとしても、災害時利用できないこともありますし、また近年、マイナンバーの普及等がありますが、高齢者の方、また機械が苦手な方、マイナンバーカードを取得したけれどもパソコンにかざしたり、使い方をわからないといった、ICT を用意しても利用できない方いうも当然いらっしゃる。

そのために、ICT が使えない状況、また、常時においても ICT をなかなか利用することが難しい方がいらっしゃることを念頭に置き、全てを ICT で完結するのではなく、窓口やアナログと言われる部分に関しても並行して運用していくことが大切かと考えております。

(委員)

説明の中で、町立図書館の電子図書館開設とあり、私も閲覧したことがあります。

しかし、電子図書館で読める本は、森鷗外などといった著作権が切れているような、昔のものが多く感じました。やっぱり最新の本や、読みたい本となると直接図書館に借りに行くか本屋さんで買うかしかないの、まだこれから課題があるのかなという認識です。

2つ目は、デジタル推進室では役場庁内の ICT 活用を考えていると思いますが、町会や行政区については相変わらず紙ベースで回覧板を回していますね。特に高齢者にとっては回覧板を回すのもつらいという声もあります。そうした家庭には回覧板の内容をコピーしてその家だけポスティングするなどの対応をしています。町会や区のお知らせなどもホームページでお知らせできたらいいといった声もあります。

ただ、ホームページを開設するには初期投資が必要になります。その後は維持費はそんなに多額でないことが多いですが、初期投資に行政が補助をしてもらえると、その後の運営や回覧板の量を減らす取り組みに十分な会費で賄えるので嬉しいです。

先ほどの環境課の例では、ゴミの収集カレンダーの QR コードからアプリで分別について見ることができるなど、行政からの発信が便利になっています。

町会や区の方でも便利に発信できるようになると非常に助かるので、ぜひ検討していただきたいです。

(デジタル推進室長)

確認ですが、今のホームページについてのお話しは、自治会や行政区が自分たちでホームページを作るといことですか、それとも町の公式ホームページの中でお知らせや情報を掲載する形になるのでしょうか。

(委員)

どちらでもいいのですが、今までペーパーで配布していた情報を、すぐわかる形にするイメージですね。

町内の公立の幼稚園や小中学校のホームページは、杉戸町の公式ホームページからもアクセスできると思います。

運営は各学校などが行っていると思いますが、町会や区の活動は住民主体ですが、行政のホームページに情報が掲載されていても無駄ではないと思います。例えば、クリーン作戦など町内全体で行うものについては、行政からの指示があることがあります。

細かいお知らせや集合場所などはホームページでお知らせすればいいと思いますが、現状はすべて紙で印刷して配布しています。

(デジタル推進室長)

今年度、ホームページのリニューアルを検討しているところでございますので今自治会等をしている所管している課と情報共有し、対策については考えていきたいと思っています。

・事務事業評価 3 杉戸町ふるさと応援寄附金の推進 (総合政策課)

質問・意見①

(委員)

先ほどのご説明によると、企業版ふるさと納税の実施にあたり、2000 社以上の企業に案内が出されたそうですね。

杉戸で生まれた人が転出する際には、転出届けの手続きのタイミングで「町外に出ても、杉戸町を忘れないでください」といった内容でふるさと納税についてお知らせすることができると思います。A4 サイズ 1 枚程度なら、広告経費もそれほどかからないと思います。

特に高野台地区など、町外からの転入者が多い地域では、子供達の世代が成長してから転出することが多い印象です。ぜひ、そのような方々にアピールしていただきたいです。

また、ふるさと納税で人気があるのは、高級な魚や肉などですが、全国的に有名な産地もありますので、それだけで勝負するのは難しいと思います。しかし、素朴な体験やイベント形式は話題性もあり良いと思います。

私は以前、梨の花掛けのボランティア活動に参加したことがありますが、白い花を見ながら梨の花を受粉させる体験はとても楽しかったです。

例えば、他の市町から来て田植え体験をするといった、自然や農業に触れるような体験を考えてみるといいのかもしれない。

アイデアを町民に募集し、広くお知らせしてみるのも良いと思います。また、境町はここ 5 年から 10 年で大きく変貌していると感じます。全国的にも関東地方でもふるさと納税の寄付額が多い町として取り上げられ、自動運転のバスが町内を巡回するなど、様々な取り組みが行われています。

参考にできる要素があれば、ぜひ情報収集していただきたいです。

(総合政策課主幹)

貴重なご意見をありがとうございました。

非常に参考になるものばかりですので、できることから取り組みを始めてまいります。

特に、町外転出の方はふるさと納税において、一つのマーケットになると気づかされました。町民課と相談しながら、どのようなかたちでご案内することができるかは今後調整していきたいです。